

KPECnews

Vol.60
2015.8.1

Kitakyushu Prosperity Enrichment Council

contents

- 01-02 藤田哲也啓蒙活動特集
- 03 産業人材育成フォーラム事業
—地方創生戦略を先取り！—
- 04 小学校応援団 活動報告
- 05 1000人の夢寄金
- 06 もったいない総研の活動
世界文化遺産登録記念展
「八幡鐵ものがたり」
- 07-08 北九州イノベーションギャラリー 活動紹介
- 09-10 公益財団法人 北九州活性化協議会
平成27年度事業計画

KPEC 公益財団法人 北九州活性化協議会

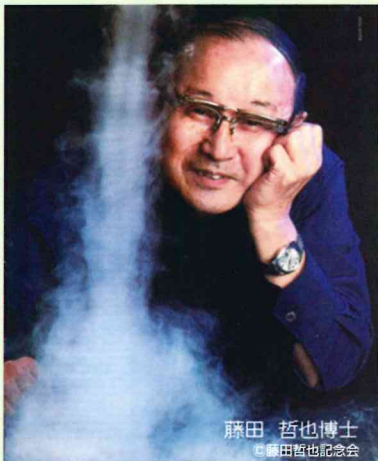
世界文化遺産登録応援展 「東田ものがたり」を開催



世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」には八幡製鐵所の4施設が含まれる。世紀を越えて稼働し続ける八幡製鐵所の誕生を改めて紐解き、歴史的なイノベーションを成し遂げた先人の汗と情熱に迫る「東田ものがたり - Steel Works Birth Story -」を誕生の地、東田の北九州イノベーションギャラリーで開催した。八幡製鐵所秘蔵の写真・展示品のほか「絵本八幡製鐵所今昔」も交え黎明期をクローズアップした。



世界の誇り！「ミスター・トルネード」 世界権威の気象学者・藤田哲也博士



藤田哲也博士の生い立ち〔概要〕

- 1920年 現在の北九州市小倉南区中曽根で生まれ、育つ。
- 1939年 小倉中学校（現在の福岡県立小倉高等学校（以下小倉高校とする））を卒業。
- 1943年 明治専門学校（現在の九州工業大学）工学部機械工学科を卒業。
- 1945年 長崎・広島の実験による被害調査に派遣される。
- 1953年 東京大学で博士号を取得し、シカゴ大学に移る。
- 1971年 竜巻の強さを表すF-Scaleを考案。
- 1975年 ダウンバーストを発見。
- 1998年 病気により永眠。享年78歳。

藤田哲也博士の主な功績

- ・竜巻の強さを表すF-Scale を考案
- ・ダウンバーストを発見

竜巻の強さを表す尺度である「Fスケール」を提唱した気象学者がいる。

その人の名前は、竜巻研究の第一人者であった藤田哲也博士。

藤田博士は、1920年（大正9年）、福岡県企救郡中曽根町（現：北九州市小倉南区中曽根）で生まれた。1933年（昭和8年）、小倉中学校（現：小倉高校）に入ると、望遠鏡を自ら製作し、月の形の変化や太陽の黒点のスケッチをするなど、天文学に強い関心を持つようになる。小倉中学5年生の時に、父が急逝。進学を断念しようとしたが、周囲の支援によって、明治専門学校（現：九州工業大学）の機械工学科に進学。卒業後、同校で物理学教室の助手を1か月務めた後に助教授に任命される。この助教授時代に貴重な研究と経験をすることになる。

一つが、1945年8月9日の長崎への原爆投下。被爆直後の8月20日～24日に、原爆の威力や爆心地の特定をするための「長崎原子爆弾調査団」に参加し、放射状に広がった爆風を発見する。

もう一つは、脊振山での雷雲調査においての、「下降気流」の発見である。これがのちに気象学上の大発見となる「ダウンバースト」の着想につながっていく。米国シカゴ大学の気象学の権威、ホーレス・ロバート・バイヤース教授が、藤田の論文、『雷雲の鼻の微小解析研究』を知ることになり、藤田を招聘。渡米することになる。

1953年（昭和28年）から、バイヤース博士の下で竜巻の研究に着手していく。持ち前の調査力、分析力、発想力を磨く中で、次々に成果を上げていく。その手法は、先入観を持たずに自然現象をじっくり観察したうえで独創的な仮説を立案、その仮説を綿密な現地観測と実験、独自のデータで検証していく実証する、というものであった。シカゴ大学での45年に亘る研究の間に、500報を超える研究論文を発表した。

藤田博士の研究成果の中で、特筆すべきものが、竜巻の強さを表す標準単位である「Fスケール」の提唱と、「竜巻の二重構造」および「ダウンバースト」の発見である。とりわけ、「ダウンバースト」は航空機の離着陸時の安全確保につながる大発見であった。いずれも発見当初は、気象学会から疑問視されたが、大規模な観察実験と粘り強い現場検証作業によって、正当性が認められることになる。これらの発見を通じて、竜巻被害の減少ならびに航空安全に大きく貢献したことも、藤田博士の偉業である。

竜巻研究を一生の仕事として、また、自らに課せられた使命として、気象学上、数多くの成果を上げた藤田博士は、『ミスター・トルネード』と称されるようになった。

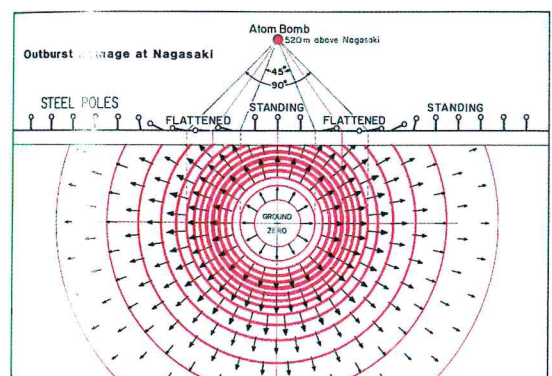
※出典： 北九州産業保存継承センター

平成26年度調査報告書 『山川健次郎と藤田哲也』より



Fスケール

階級	風速（秒速）	想定される被害
F0	32m/s未満	被害は比較的軽微。
F1	33-49m/s	中程度の被害。
F2	50-69m/s	大きな被害。
F3	70-92m/s	重大な被害。
F4	93-116m/s	深刻な大被害。
F5	117-141m/s	あり得ないほどの莫大な壊滅的被害。
F6	142-169m/s	未曾有の超破滅的な被害



爆心地における爆風の強さと風向き等の調査図(上)と
周辺に与える爆風の強弱を赤色の濃淡で表現した図

長崎爆心地の爆風の強さと風向



功績を称える数々の継承イベント



企画展、巡回展、講演会等の開催

～北九州地域の工学教育の先駆者と
北九州で育った世界的竜巻研究の開拓者の功績～

・会期：平成26年9月27日～
10月19日開催

巡回展

- ◆平成26年11月6日～10日
- ・会場：九州工業大学・飯塚キャンパス
- ・主催：北九州イノベーションギャラリー
- ◆平成27年3月14日～31日
- ・会場：小倉南生涯学習センター
- ・主催：藤田哲也博士記念会



講演会・セミナーの開催

1 講演会「藤田哲也博士の航空防災に於ける偉大な功績」

- ・日時：平成26年7月24日（木）（九州工業大学）
- ・講師：上田 恒夫 氏
（元JALパイロット、元シカゴ大藤田哲也研究室特別研究員）

2 講演会「藤田哲也博士記念・気象」

- ・期日：平成26年10月18日（土）（北九州イノベーションギャラリー）
- ・講師：土屋 清（日本気象技術士会 会長）
「藤田先生との30年」
：新野 宏（東京大学大気海洋研究所所長）
「竜巻の謎に迫る」
：森 さやか（NHK国際放送気象キャスター）
「藤田哲也博士のユーモアの研究」

3 講演と座談会「藤田哲也先生を語る」

- ・期日：平成26年10月19日（日）（北九州イノベーションギャラリー）
- ・講師：中村 弘（藤田博士の教え子、明治専門学校OB）
「哲ちゃん先生の思い出」
：上田 恒夫（前述）「天才の条件」
：井上 哲秀（小倉高校教諭）
「母校に於ける藤田博士のDNA」
：橋本 昭雄（藤田哲也記念会・事務局長）
「藤田哲也博士記念会の活動」

小学校応援団との連携による出前授業の実施

～北九州の企業人による小学校応援団の出前授業に
藤田哲也博士を取り上げ、高校、大学を通じた藤
田博士の教え子の中村博氏が門司区藤松小学校
で授業を実施した～（毎日新聞掲載記事）



教材開発等の取り組み

一産業人材育成フォーラムとの協働

小学校理科研究協議会での調査研究

藤田哲也博士の偉業と生き立ち等の教材開発の教育的活用について検討を進めた結果、小学校理科研究協議会における研究がなされ、北九州市小学校教育スタンダードカリキュラムの第5学年の「理科」（天気と情報の項）において、藤田哲也博士についての指導基準が明記された。

5学年 理科 単元 1 天気と情報(1)(2)（総時数12時間＋予備時数2時間）

◆本単元を通じて行う道徳教育の例

「本単元は、道徳の内容『1- (5) 心理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする』と主に関連する。台風、大雨、竜巻などの自然災害について指導する際に、北九州の気象学者で、竜巻の被害を少なくするため竜巻の仕組みについて研究した、藤田哲也博士の功績に触れる。それを通じて、科学的な探究心と共に、物事を合理的に考え、心理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくすることが出来るように支援する。」

◆郷土資料「ミスタートルネード藤田哲也」の活用

この単元の終わりに予備時数を活用して、授業を行う。
（予備時間1時間）

常設展示場の開設（平成25年3月）

～九州工業大学百周年を
記念して『藤田ギャラリー』
が開設された。

展示品は、藤田哲也博士が
受賞した「フランス航空宇
宙アカデミーの金メダル」
や博士が愛用したカメラな
ど貴重なものが多数～



藤田ギャラリー

展示品の数々



フランス航空宇宙アカデミー
金メダル受賞





産業人材育成フォーラム事業、地方創生戦略を先取り!



都市の地域力と産業力の強化を目的に産学連携による産業人材育成の地域システムづくりを目指すフォーラム事業は、地方創成戦略の具体的な、特徴ある取り組みとして、計画の具体化による「事業の見える化」が期待されている。

今後に向けて、地域づくりを経営の中でシェアするCSV(Creating Shared Value)の理念を踏まえ、連携大学の地域貢献活動の創発と、事業推進の中心主体である中堅・中小企業の事業参画を促し、ステークホルダーの自律型連携による事業推進体制の構築が求められている。

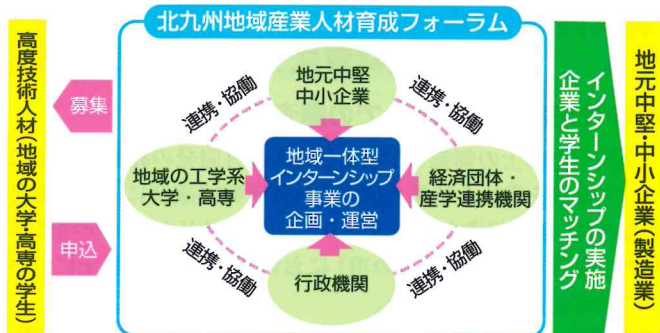
■地域連携型インターンシップが地域創生戦略のモデルに!

地域の工学系大学が連携し、産学官連携で実施する地域連携型インターンシップ事業を中心に、北九州型CO-OP教育のシステムづくりを目指す産業人材育成フォーラム事業は「まち・ひと・しごと創生戦略」や地域再生の核となる大学づくりを目指すCOCプラス事業など国の地方創成戦略の具体的なモデル事業として評価が高まっている。

北九州地域産業人材育成フォーラム 地域連携型インターンシップ

- ・ 地元企業の強み・魅力を学生にPR (中小企業振興策:人材力強化とブランディング)
- ・ 学生の社会人基礎力の向上
- ・ 学生の地元企業の情報取得の機会

学生の社会人基礎力向上・地元就職促進により地域の産業基盤(中小企業)の強化を目指す



理系人材育成のための早期工学教育の仕組みづくり、社会の求める人材の橋渡しである高度人材育成システム創り、さらには、中核技術人材や中小企業経営者の育成までのプログラムで構成される「産業人材育成フォーラム」の事業体系がほぼ完成した。

■専門的知識を駆使した長期実践型インターンシップを実施

産業人材育成フォーラムの実践型インターンシップを九州工業大学情報工学部の3,4年生9人が実施した。

留学生を含む若い世代に飯塚市街地の魅力を伝えようと情報工学の知見を活かしたユニークな地図を作り上げた。「地図に付加価値をつける!」がテーマ。スマートフォンをかざせば、写真や動画が画面上に飛び出すAR(拡張現実感/オーグメンテッドリアリティ)技術を駆使した力作である。嘉穂劇場や勝盛公園などの写真案内についているQRコードにスマートフォンをかざせばARを楽しむことができる。また、公衆無線LANサービス「Wi-Fi」の感度を示すポイントも記されている。



■地域連携型インターンシップ事業実施の具体的効果が!

中堅中小企業を対象にした地域連携型インターンシップの開始から4年。地元企業への就職促進効果が具体的に始まった。地域連携型インターンシップの参加学生の地元企業就職数は、3年間で3倍増。

就職率は、全体学生の地元就職率11.7%の2倍(23.8%)となった。

地域連携型インターンシップ事業の進捗状況

参加状況	H26年		H25年		H24年		H23年	
	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録
大学	5校	5校	4校	4校	4校	4校	2校	2校
企業	82社	92社	73社	80社	57社	63社	33社	42社
学生	134人	187人	121人	164人	121人	159人	59人	62人

地域連携型インターンシップ実施効果

	H25/3月卒	H26/3月卒	H27/3月卒	3年間合計
インターンシップ実施学生の地元中小企業就職	9人/28人 32.1%	11人/61人 17.1%	20人/79人 25.3%	40人/168人 23.8%
全体の地元就職	96人 11.5%	184人 13.9%	162人 10.1%	442人 11.7%
就職者合計	836人 100%	1,322人 100%	1,605人 100%	3,763人 100%

※H25/3月卒業対象校は2校(九州工業大学工学部(府)生命体工学研究科・情報工学部(府)・北九州市立大学)

※H26・27/3月卒業対象は4校(北九州市立大学・九州工業大学・西日本工業大学・北九州高等工業専門学校)



■北九州テクニカルカレッジモデル事業実施

社会人プログラム「北九州テクニカルカレッジ」が始動した。企業の技術的な課題についてアドバイスをし、中堅・若手技術者の総合的なスキルアップと意識改革を行うことを目的とした企業から出された課題に対応した大学教員が企業へ訪問し、企業の中堅・若手技術者とディスカッションを行い、事業実施の課題等を確認した。受講企業には好評。H27年度の事業拡大のための社会人プログラム活用促進セミナーを開催する。

実施企業

- ①(株)マツシマメジャテック (参加者 4名)
- ②(株)東洋電機工業所 (参加者 4名)
- ③アイム電機工業(株) (参加者 20名)





北九州の企業人による小学校応援団の活動



小学校応援団は平成24年度に11校を対象に講師派遣などの事業を開始した。3年目となる平成26年度は対象校が40校になり児童、教職員、保護者を対象とした授業および研修会への講師派遣114件を実施した。

昨年度の49件から大幅に実施件数が増加した。

■出前授業への講師派遣

平成23年度より企救丘小学校の「憧れの職業紹介」授業に講師を派遣している。平成26年度は新たな職業として、サッカー選手(ギラヴァンツ)、バスケットボール選手(九州共立大学)、ゲームクリエイター(麻生情報ビジネス専門学校)、エンジニア(新日鉄住金エンジニアリング(株))の仕事を紹介した。

平成26年度の主な出前授業

テーマ	企業・団体名	件数
体育:走り方教室	北実会10件	19
	黒崎播磨(株)4件	
	(株)安川電機2件	
	(株)九電工2件	
	TOTO(株)1件	
環境:どんぐりの森づくり	TOTO(株)	3
環境:けんこうなくらしと水のかかわり	TOTO(株)	2
環境:石けん教室	シャボン玉石けん(株)	4
環境:空き缶リサイクル	新日鉄住金(株)	1
環境:環境教室	西部ガス(株)	1
規範:バスの安全な利用とマナー	西鉄バス北九州(株)	4
規範:マナー教室	(株)ケイ・ビー・エス	5
規範:e-ネット安心講座	NTT西日本	1
職業:レゴブロックを使った設計体験	新日鉄住金エンジニアリング(株)	2
職業:銀行の役割	福岡銀行	2
体験:お菓子・ケーキ作りの指導	こうのとりの	2
体験:紙漉き体験	(株)サンリブ	2
体験:地図づくり	(株)ゼンリン	4
体験:料理教室	(株)千草	2
国語:新聞ができるまで	毎日新聞西部本社	1
郷土:はくぞう座の出前公演	(株)SP-Link	6
社会:太刀浦コンテナターミナル見学	関門コンテナターミナル(株)	3

企救丘小学校 「あこがれの職業」 児童の感想文の一部を紹介

〈平成27年1月22日…総数174名に対し7回の分散開催〉

事例1.【麻生情報ビジネス専門学校】…ゲームクリエイター

・僕はグラフィック・デザイナーの仕事に興味をもった。仕事の内容は、原画、CG、アニメーションなどがあるが、原画を書く仕事をやってみたいと思った。自分が得意とする分野を続けた方が良いと聞いて、絵を描き続けてもっと上手くなれるよう頑張りたいと思った。



事例2.【新日鉄住金エンジニアリング(株)】…エンジニアの話

・発電所、LNG基地、ゴミ処理場など暮らしに役立つようなものを造っており、自分もやってみたらその実感がわきそう。
・名前は知らなかったけど、すごい技術が沢山あることが分かりました。例えば、ゴミを溶かす施設、スカイツリーの部材、羽田空港滑走路の栈橋などをつくっている。とても大きなものをつくっていて長い年月が経つけどすごいと思った。



■教員研修への講師派遣

教員対象のマネジメント研修で、「組織の活性化」や「お客様対応」など、27件のテーマに対応した。

テーマ	企業・団体名	件数
お客様対応	TOTO(株)	19
ビジネスマナー	(株)ケイ・ビー・エス	5
人材育成	(株)アーバンクロス	1
組織の活性化	北九州市大MBA	1
私の歩んだ道	(株)クロスポイント	1

事例【北九州市立大(MBA)】の派遣講師による「組織の活性化」についての研修…意見・感想の一部を紹介

〈平成26年12月25日 八幡西区校長会-研修会 32名〉

・多方面から学校運営を見直す機会となりました。目標達成理論や期待理論など興味深く聞かせて頂きました。今後の学校

経営に生かしていきたいと思います。学校とは異なる立場からの経営に対するアプローチの仕方をお伺いでき、大変参考になりました。意欲を引き出す評価の仕方を更に考えるよい機会となりました。

・なかなか、目に見える成果が上がらない学校現場では、モチベーションを上げること、高い目標設定をさせることは大変難しい。PM理論を参考にリーダーシップを発揮して組織変革が少しでも実現できるとすばらしいと思いました。

など、有意義な研修だったのご意見をいただいた。





このまちの教育・文化を私たちの手で 1000人の夢資金



平成24年9月18日市民の都市格（教育力・文化力）向上を目的とし活動をスタートした1000人の夢資金事業も3年目を迎え、寄付事業および助成金事業を拡充してきた。寄付事業については1口3,000円を基本とした寄付募集を継続し、広報の新しい形としてメーリングリスト、facebook利用の拡充にも取り組んだ。また、助成事業については平成26年度から年1回（助成事業募集：7月、助成事業実施期間：10月から翌年9月まで）とし、内容の充実につとめている。

■寄付事業

・寄付金募集

昨年は平成26年4月から平成27年3月までの期間で138件、合計2,003,111円のご寄付をいただきました。

平成24年10月夢資金開始からの3年間の寄付累計件数433件、累計金額5,764,053円になりました。

1口3,000円の基本寄付を中心に寄付活動を推進しました。件数的には減少しておりますが、昨年度金額では200万円を超え、過去最高になりました。

・寄付金イベント

第2回 1000人の夢資金・チャリティーゴルフコンペを開催
開催日：平成26年11月25日（火）

場 所：九州ゴルフ倶楽部八幡コース

三連休明けにもかかわらず88名の方々にご参加いただき、寒風吹く中、皆様の温かいお気持ちと熱いプレーで大会を盛り上げていただきました。ご参加の皆様からは総額264,000円をご寄付いただきました。



■第3回助成先の決定（平成26年10月1日）

- ・対象活動期間 平成26年10月1日から平成27年9月30日
- ・応募 10件 ・助成先 7件 （助成金額計 1,300,000円）

（第3回助成先）

助成先団体名	事業名	事業概要
劇団「青春座」	松本清張・原作 「わるいやつら」演劇公演	松本清張・原作「わるいやつら」演劇公演。 創業69年を誇る北九州市民劇団。本公演を成功させ、来年の創立70周年につなげる。
九工大トマトロボット競技 実行委員会	トマト摘果競技会開催	九工大、社会ロボット具現化センターによるトマト摘果ロボット競技会。北九州市を新しい農業用ロボットの発信都市とする。
NPO法人 ドッグセラピージャパン	動物愛護週間イベント	動物介在活動（Animal Assisted Activity）により、保育園、幼稚園、小学校児童の情操教育、特養訪問により高齢者に対するドッグセラピー活動を実施する。道徳観モラルの育成を図り、都市格の向上を目指す。
ひまわり実行委員会	「10周年記念事業」開催	10周年事業として「ひまわりを咲かせよう」絵画展を実施する。 2015年2月北九州市立美術館本館市民ギャラリーにて絵画展を開催する。
PICO・POKO・CLUB	「カタリ場」リーダー養成研修	キャリア教育プログラム「カタリ場」実施。 地元大学の大学生によるコアスタッフ、プロジェクトマネージャーを養成する。
北九州インスタレーション プロジェクト実行委員会	「BUILDING DIGNITY」展の開催	歴史的な街並みや北九州の発展を象徴する重要な建築物に於いて展覧会を開催することで、都市や建築の魅力を再発見する。
ひびきの親子あそび研究会	「市民の学び舎」計画	ひびきの地域で乳幼児親子を対象とする子育て支援活動を実施する。「市民が集い市民と学ぶ、地域と学ぶ育つ未来の市民の学び舎計画」平成26年度後半は北九州市立大学のキャンパス内に拠点を移し、毎月定期開催する。

■寄付のお願い

1000人の夢資金事業の趣旨及び寄付状況等をホームページ、facebookでお知らせしています。

夢資金ホームページURL（<http://www.kpec.or.jp/yume>）

夢資金facebook URL（<http://www.facebook.com/kpecyume>）

今後とも皆様の支援をお願いいたします。

■助成金についてのお知らせ

平成26年度から当分の間、助成金募集を年1回とさせていただきます。

助成募集期間 7月1日～31日

事業対象期間 10月1日～翌年9月30日



もったいない総研の活動



「もったいない総研」は、世界の環境首都を目指す北九州市の環境政策を踏まえ、「環境未来都市」の実現に向けて、市民・企業・大学・行政の協働の場づくりと「もったいない精神（こころ）」の普及のための情報交流機会の創出を行ってきた。

「もったいない総研」は、世界遺産登録を踏まえ、環境、歴史、産業、文化に亘る地域の歴史的遺産の保存・継承とその活用について、まちづくりの視点からの研究をしていく。

◆「えこっパー」のブランディングと普及活動

持続可能な循環型社会の形成に向け、古紙リサイクルの促進や再生資源の地域循環圏の構築など、環境負荷の低減等を目的として、市内で回収された牛乳パックや菓子箱などの古紙を原料とする北九州ブランドのトイレトーパー北九州紙「えこっパー」の普及を推進してきた。

また、北九州市の環境未来都市としてイメージアップの効果を高めるため、市の環境マスコットキャラクター「ていたん」を組み合わせ「ていたんプリントえこっパー」を開発し、北九州市長による新聞発表も行い、持続的な地域循環型社会の実現を目指す。

新たに誕生した「ていたんプリントえこっパー」の市民への普及・浸透によって、「古紙リサイクルの促進」「環境意識の啓蒙と高揚」「都市ブランド力の向上」等が期待されている。



西日本新聞 掲載記事 2015.05.19



「東田ものがたり」に続いて、世界文化遺産登録記念展「八幡鐵ものがたり」の開催



官営八幡製鐵所時代に建設された施設が、平成27年度世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄、製鋼、造船、石炭産業」へ登録されたことを記念して、登録応援展「東田ものがたり」を継承、一部リニューアルをして、世界文化遺産登録記念展「八幡鐵ものがたり」を北九州イノベーションギャラリー(KIGS)主催で開催(7月4日～12月20日)。

欧米諸国に追いつくための近代化、殖産興業を目指す明治政府は、需要が急増する鉄製品を自前で作るが必要と考え、本格的な製鉄所の設立を目指した。その設立までの経緯、設置場所の選定、特に八幡への誘致の経緯、関係した多くの人々、独自技術の開発に向けたイノベーションへの熱い気概など、明治日本の近代化の舞台裏が、多くの資料や写真、さらにKIGSの調査研究資料と相まって、分かりやすく解説されている。生粋の八幡っ子の漫画家、故・富増万左男の「絵本八幡製鐵所今昔」の原画も多数展示。





北九州イノベーションギャラリー事業紹介



1. 企画展示事業

産業技術、デザイン、及びイノベーションに関連したテーマについて独自の視点から次の企画展を開催した。

春企画展	未来へ夢をつむぐ せんいのチカラ展
夏企画展	サンダーバード博 in 北九州 ～世紀の特撮が描くボクらの未来～
秋の特別 企画展	山川健次郎と藤田哲也 ～工学教育の先駆者と竜巻研究の開拓者～
秋企画展	メタルズ! ー変容する金属の美ー
冬企画展	魅せますニッポンの「技」THE世界一展

- ①春企画展は「せんい」について、天然繊維と化学繊維の歴史と種類、それぞれの性質や機能などを体感できる各種実験装置類も交え解りやすく紹介した。
- ②夏企画展は「サンダーバード」で描かれた人々の夢や希望を具現化し、利便性・快適性を追求したハイテクノロジーを現在の最先端技術と共に紹介した。
- ③秋の特別企画展は企画展フロアを「山川展」「藤田展」に二分し、各々のプロフィール、幼少期、学生・研究者期、壮年期に区切り、偉業をわかり易い文章で説明し、それぞれの功績を縁の品をもって紹介した。
- ④秋企画展はいのちのたび博物館との初の共同展示。古代から現代に至る様々な金属造形、金属工芸を展示。金属が有する独特の魅力について広い視点で捉えた形で紹介した。
- ⑤冬企画展はオンリーワンの価値を持つたくさんの「技」であふれるニッポンの世界一のものづくりをジャンルごとに辿り、その真髄や可能性を感じる紹介をした。



2. 教育普及事業

(1) イノベーションフォーラム

注目される新世代のクリエイターを迎え、これからのものづく

りをテーマとする講演とパネルディスカッションを行い、当施設紹介や交流会も織り交ぜ、新しいステークホルダーづくりに努めた。

【基調講演】

これからの「デジタルものづくり」の進化の方向性や可能性を踏まえた「近未来のモノづくりとイノベーション」について

田中浩也氏/慶應義塾大学 環境情報学部 准教授

【パネルディスカッション】

田中 浩也氏

柳瀬 隆志氏/ファブラボ太宰府代表、

嘉穂無線株式会社 代表取締役副社長

三浦 政景氏/マルソー産業株式会社代表取締役

山口 幸志氏/(公財)九州ヒューマンメディア創造センター

プロジェクト推進課長



(2) 技術革新講座

“住まい”をキーワードとした様々な技術革新に関する講座を4回連続で開催した。

- ①安全くつろぎの家づくり/建築・構造・材料の最新テクノロジー
谷 広策氏/パナホーム(株) 戸建事業企画部
- ②快適な暮らしへいざなう生活空間/空調の最新テクノロジー
橋本 哲氏/ダイキン工業(株)
テクノロジーイノベーションセンター
設立準備室
- ③暮らしと健康を支える快適な水回り/キッチン、バス、トイレの最新テクノロジー
林 良祐氏/TOTO(株) レストルーム事業部長
三石 聡氏/TOTO(株) 浴室開発部長
- ④安全・安心を支えるホームセキュリティ/防犯・防災の最新テクノロジー
杉本 敏範氏/セコム(株) 理事 九州本部長



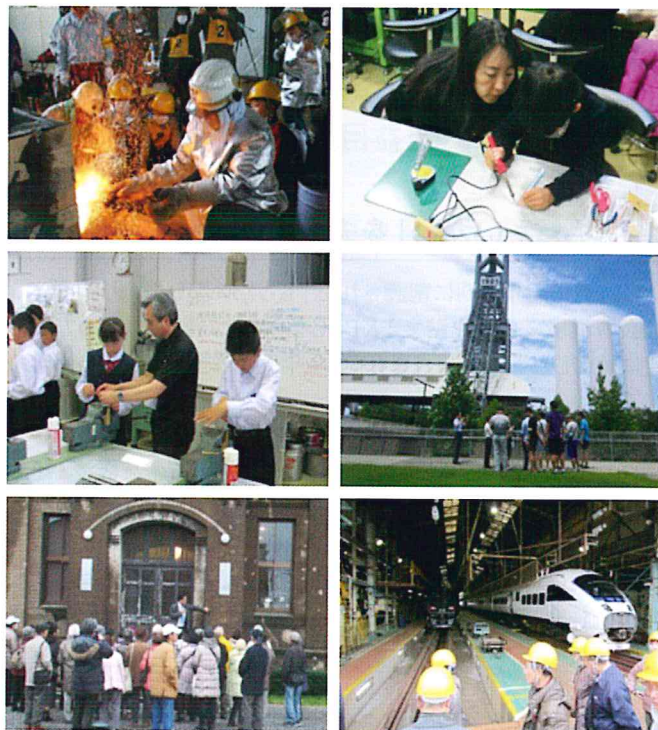
(3)デザイン講座

- ①「文字とデザイン タイポグラフィーの世界」と題して、3回シリーズで開催した。

大庭 三紀氏／書家・タイポグラファー・グラフィック
デザイナー・美術教育者・筆跡鑑定士・
d-cube studio代表
蒼 明氏／書家・筆文字デザイナー

- ②「プロと一緒にデザインするMY置き時計」
小学4年生から6年生を対象として開催した。
北九州総合デザイナー協会

- ③「BIMで変革する建築デザインワークフロー
デジタルデザインの可能性」
佐藤 和孝氏／エアアンドエー株式会社
BIM・ソリューション企画推進課 課長



(4)ものづくり講座

出前講座を5回実施した。(大学生向け 2回、高校生向け 3回)

- ①「ものづくり社会に向かう心構えや基本的マナーについて」
(戸畑工業高等学校)
- ②「安全作業の基本～自校での実習・企業での実習に向けて」
(小倉工業高等学校)
- ③「機長席からのメッセージ」
(九州工業大学)
- ④「白虎隊総長と竜巻博士」
(九州工業大学飯塚キャンパス)
- ⑤「ものづくりにおける企業責任」
(八幡高等学校)



(5)その他

市民講座、たたら製鉄、各種工作教室やバスツアーなどの主催事業、東田サマースクールや世界一いきたい科学広場などの東田3が連携したワークショップなども積極的に開催した。

3. 調査研究事業

産業技術の保存と次世代への継承を目的として、国立科学博物館、技術士会などと連携し、自主調査研究を行うとともに共同研究や委託研究を実施した。

※それぞれのテーマに対して、随時報告会を実施する予定。

- ①「北九州における設備診断技術の歴史と発展」の調査・研究
・当館調査研究部門の監修のもと、日本診断工学研究所(元九州工業大学教授) 豊田利夫氏および企業の専門技術者を特任研究員として委託し、調査報告書を作成した。
- ②「北九州における表面処理技術の歴史と発展」の調査・研究
・当館調査研究部門の監修のもと、公益社団法人日本技術士会九州本部の宮田守次氏、同技術士会メンバーを含め特任研究員として委託し、調査研究報告書を作成した。
- ③「液晶ディスプレイ技術」の系統化調査
・国立科学博物館との共同研究にて、液晶ディスプレイ産業の勃興期からカラーTVの液晶化に到る約30年間の発展の技術の系統化調査研究を行い、技術発展の本質についてまとめた。
- ④「マイスターによる効果的な技術指導 ～手溶接作業～」の調査・研究
・当館調査研究部門及び工房長監修のもと、北九州マイスター技能伝承倶楽部に委託し、調査研究報告書を作成した。
- ⑤「山川健次郎と藤田哲也」の調査・研究
・山川健次郎研究家、藤田哲也記念会、当館研究員協業で実施した。



公益財団法人 北九州活性化協議会 平成27年度事業計画



公益目的事業

1. 「もったいない」を未来に引き継ぐ事業

KPEC10周年を期に創設された「もったいない総研」事業は、社会の環境変化等を踏まえKPECならではの事業の進め方と時代に対応した新しい観点をもって今年度も引き続き検討を行う。

1) 「もったいない総研」の再構築事業

「もったいない精神」の醸成と合わせて、環境(産業経済・社会生活)や産業文化遺産の保全等までを含む広い範囲を想定し、次世代に継承していくべき事業の企画、研究を行う。

本年度は、「KPEC事業開発研究会」においてKPEC事業として持続性を持った地域活性化事業の検討の中で方向性を確認する。

2) 環境未来都市構築支援事業

(1) 「えこっパー」の普及にかかる企画・研究の実施

本年度は、改めて北九州市の資源循環型社会への取り組み等と連携して、えこっパー事業の見える化を図ると共に、えこっパーのブランドアップ及び製品普及のための仕組みづくりについて検討する。

2. 産業人材を育成する事業

1) 北九州産業人材育成フォーラム事業

北九州地域の中堅・中小企業の経営力強化と雇用環境の改善を図るとともに産学協働による、産業人材の育成を目的として、「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、産業人材育成事業の開発、実施とCSV(共通価値の創造)を踏まえた産業人材育成のための地域システムの構築を行う。

(1) 高度人材育成プログラムの企画、運営

① 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

地域4工学系大学・北九州高専と中堅・中小企業の自立型連携によるインターンシップ事業を拡充する。

(目標: 参加校 5校、参加企業 100社、参加学生 200人)

② 「地域連携型インターンシップ」運営環境の開発とプロモーションの実施

(2) 社会人育成プログラムの企画、運営

① 中堅・中小企業の中核専門人材育成に向けた環境開発

② 中堅・中小企業の経営人材育成に向けた環境開発

(3) 青少年育成プログラム事業の企画、運営

① 早期工学教育の実施環境の開発

② 藤田哲也博士をコンテンツにした早期工学教育の環境づくり

(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

① 産業人材育成フォーラム企業会員の募集と組織化の実施

② 地方創生戦略を踏まえたフォーラム事業の展開

③ 「産業人材育成セミナー&産学交流会」の開催

④ 北九州地域企業学内説明会の実施

⑤ 「北九州産業人材育成フォーラム」ホームページの運用

3. 次世代を担う人材を育成する事業

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業の推進

「北九州市立小学校への教育支援に関する協定書(平成25年4月1日)」に基づき、市教育委員会と連携し、小学校校長会、PTA協議会等と協働して、北九州地域の有志企業が参加する「北九州の企業人による小学校応援団」事業を企画・実施する。

(1) 支援対象校の拡大

年次目標に基づき、支援対象校を40校(26年度)から70校に拡大する。

・[年次目標] 27年度 70校、28年度100校、29年度 全130校

(2) 支援事業活用サイトの新設

(3) 支援事業の継続実施

(4) 企業従業員のPTA活動参加促進

(5) 企業等の支援情報リスト(支援メニュー)及び講師情報の蓄積

(6) 応援団事業の広報、プロモーションの推進

(7) 支援体制の整備

4. 都市格(教育力・文化力)を向上する事業

1) 「1000人の夢寄金」事業

北九州市の都市格向上を目的として、教育および文化分野における市民活動への助成を行う「1000人の夢寄金」事業について、体制整備と認知度の向上を図る。

(1) 「1000人の夢寄金」募金事業

① 寄付募集体制の確立

② 寄付金受け入れ体制の構築

(2) 「1000人の夢寄金」助成事業

① 助成事業の募集

② 助成先の選定

(3) 広報・プロモーション事業の実施

① ホームページ及びFacebookの運営

② 「1000人の夢寄金」事業報告書の作成

2) その他関連事業

(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援

5. まちづくり推進事業

1) まちづくり事業

(1) まちづくり事業の開発、推進事業

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業の研究、開発を行い、事業化を検討する。

①北九州地域活性化事業の研究・開発

「KPEC事業開発研究会」を設置し、産学官民の連携軸としてのKPECの組織的特徴と機能を活用した地域活性化事業の研究・開発を行う。

本年度は、プロジェクトを編成して「もったいない総研」の再構築についての検討を行う。

②ABLEサロンの運営、企画開催

(2) 情報受発信の強化

①KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行する。

・発行回数：原則として、年1回（5月）

・発行部数：2000部程度

②ホームページの運営

③メール送信システムの整備

2) 地域づくりネットワークの推進

(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の実施

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム(事務局：KPEC)」を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

(構成組織)

北九州商工会議所、(公財)北九州活性化協議会、(一社)西日本工業倶楽部、(公財)西日本産業貿易コンベンション協会、(一社)北九州中小企業経営者協会、(一社)北九州青年会議所、(一社)北九州青年経営者会議

①「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」の開催

②協力事業の実施

(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

(3) 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

北九州イノベーションギャラリー（KIGS）は、北九州地域の「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用しながら、北九州地域、ひいては日本を支える新たなイノベーションへとつながる

(1) 人材活用・育成、(2) 産業技術の保存継承（技術の知と心の継承）、(3) 技術革新(イノベーション)の機会創出を図っていくことを目的としている。

平成27年度は第三期指定管理期間の初年度であり、市及び関連機関との連携を強化し確実に推進すると共に、新たに技能教育事業の拡充に向けた環境づくりを行う。

1) 教育普及に関する事業の企画、運営

次世代の北九州を支えるイノベーターを育成していくため、若手技術者や技術系大学生、工業高校生等を重点対象とした「ものづくり教育」を推進する。

2) 調査研究に関する事業の企画、運営

北九州市の産業技術の保存継承及び今後のイノベーションの推進に関する調査研究事業を行うと共に、人材育成に資するため以下の調査研究に取り組む。

3) 企画展示に関する事業の企画、運営

企画展示は、当施設の基本テーマである「イノベーション」を中心にその考え方を伝え、その重要性をアピールするのに最適な事業である。本年度は企画展4回（春・秋・冬・春）と特別展や運動展を企画し実施する。

4) 映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画、運営

当施設のテーマであるイノベーション、産業技術、デザインに関する映像・図書・資料等を収集し、アーカイブの充実を図るとともにライブラリーや情報システムを通じ広く公開し、学習や研究活動を情報面から支援していく。

法人運營業務

KPECの運営基盤としての経営力強化と運営体制の整備を実施する。

1. 会員募集と会員サービスの向上

1) 会員募集の強化

昨年度完成した『KPECパンフレット』を活用して賛助会員募集を行い、財務体質改善計画に従って、財務、運営双方の経営体質強化を図る。

2) 会員サービスの向上

会員管理体制の整備により、KPECが実施する各種地域活性化事業への案内、及び行政や他団体からの講演会開催等の情報提供の徹底を図り、会員との協働による地域活性化事業の推進体制を構築する。

2. 寄付事業の推進

「公益財団法人」としての税法上優遇措置の強みを活かし、1000人の夢寄付をはじめ、各事業への指定寄付等を含め、KPECが公益寄付の受け皿となる寄付金事業の創設についての検討を行う。

3. 地域連携促進事業

1) 「スポーツ振興チケット」事業の継続実施

KPECの青少年育成事業として企画、制作した「サッカーを通じた青少年育成事業—スポーツ振興チケット」を「スポーツ振興による青少年健全育成実行委員会」を通じて、北九州地域の小中学生・少年サッカーチームおよびその父兄に配布し、地域活性化のシンボルである「ギラヴァンツ北九州」を支援する。

4. 新規指定管理事業の検討

1) 運営体制の整備

- (1) 事業運営体制の整備促進
- (2) 財務体質改善の推進
- (3) 事務局体制の強化

祝・世界文化遺産登録記念展

やはた

八幡鐵ものがたり

Steel Works Birth Story

2015.7.4^土→12.20^日

【主催】北九州市、北九州イノベーションギャラリー

【後援】福岡県教育委員会、北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、北九州商工会議所、JR九州、西鉄バス北九州(株)

【協力】新日鐵住金(株)八幡製鐵所、(株)スヒナ、北九州市立文書館、北九州市立中央図書館、北九州市立八幡図書館、
北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)、八幡東区役所

【監修】北九州市の文化財を守る会

※本展示は、当館にて今春開催した、世界文化遺産登録応援展「東田ものがたり」の一部(約3割)展示を入れ替え、この度の正式登録を記念して継続公開するものです。

＜画像提供：新日鐵住金(株)八幡製鐵所＞元の白黒写真に色彩を施しております

北九州イノベーションギャラリー

企画展示ギャラリー

福岡県北九州市八幡東区東田2-2-11

開館時間▶ 9:00 ~ 19:00 土・日・祝日は17:00まで (入場は閉館の30分前まで)

休 館 日▶ 毎週月曜日 (7月18日~8月31日までは無休、9月以降、月曜日が祝日の場合は翌日)

観 覧 料▶ 一般: 300円 大学生・高校生: 100円 中学生以下無料 団体30名以上は2割引、障害者割引有り

多目的スペースでも世界遺産に関する展示を行っています(無料) 【企画】北九州市総務企画局世界遺産登録推進室



北九州市立いのちのたび博物館

世界文化遺産登録記念展

世界遺産のまち・北九州と明治日本の産業革命

■会期: 7月4日(土)~11月8日(日) ■場所: 3F ぽけっとミュージアムNo.9~11

■時間: 9:00~17:00 (入館は16:30まで) 常設展観覧料が必要。

詳細は、いのちのたび博物館ホームページをご覧ください。

<http://www.kmnh.jp>



<http://www.kigs.jp/>

北九州イノベーションギャラリー

検索

tel:093-663-5411

KIGS

北九州イノベーションギャラリー

産業技術保存継承センター
KITAKYUSHU INNOVATION GALLERY & STUDIO

指定管理者 公益財団法人北九州活性化協議会